

## 26 *Blow the man down*

(Revised)

### 1. この歌の歴史的背景

この歌にはちょっとした歴史があります。すなわち19世紀後半に **Black Ballers** という高速定期船がニューヨークとリバプール間を就航していました。何でもイギリスを出発してから4週間以内にアメリカに到着し、帰りの航海は通常3週間で切った早さだったそうです。船乗り達にとっては船足が速ければ速いほど、その船の航海日数は短縮される為、それだけ早く給料をもらうことが出来ました。ですから、当然の事ながら船乗りの多くはこの船足の速いクリッパー船に乗ることを希望したそうです。

一方、当時の船乗り達の船上での生活はムチによって厳しく規律が守られていました。

そして不幸なことに **Black Baller** の船長達は揃いも揃って特別残忍なことで有名でした。ある船乗りは、仲間の一人が殴打されたという時はそれが地面に叩きのめされたことを意味するんだ、と言っています。この "**Blow the man down**" の歌はこれらの船の甲板上で、船乗り達が不当に叩かれる様子を歌ったものと説明しています。"**Blow**" は拳や綱止め栓、あるいはキャプスタン棒を使って仲間を打ちのめすことを言っているのだそうです。このような厳しい刑罰が課せられた理由としては、船上での生活が極めてハードであったこと、それを生き抜くためにはかなりのタフネスさが要求されたこと、又士官達には船上での厳しい規律を船乗り達に課すことで高いモラルを維持し、同時に反乱を防ぐことが目的であったようです。因みに、この歌は Halyard shanty (帆・旗などの上下索) です。

### 2. 歌詞の日本語訳

奴を打ちのめせ

おー、奴を打ちのめせ、おまえ達、奴を打ちのめすのだ、  
俺のやり方に従って、奴を打ちのめせ、  
おー、奴を打ちのめせ、おまえ達、奴を叩き出せ、  
奴を打ちのめすのに少し時間をくれ。

オー、使いものにならない奴らは去った、  
そしてぶたばこはぎゅうぎゅう詰めさ、  
俺のやり方に従って、奴を打ちのめせ、  
そして船長は言うんだ、"天候に注意を払え" とね、

おー、奴を打ちのめすのに少し時間をくれ、  
そうだ、奴を叱りとぼして、打ちのめしてやれ、  
俺のやり方で奴を打ちのめせ、  
そして奴をリバプールの街に吹き飛ばせ、  
おー、奴を打ちのめすのに少し時間をくれ、

解説・日本語訳：宮崎多加雄